

コード No.18-NPF-004

提出日：令和元年 5月 10 日

平成 30 年度「子ども被災者支援基金保養団体支援事業」報告書

一般社団法人子ども被災者支援基金
代表理事 鈴木 理恵

1. プログラムの目的

過去 3 年間の活動において、保養団体が抱える慢性的な資金不足や人材不足に加え、プログラムの内容についての評価、危機管理の程度、スタッフに対する教育など、自ら作るプログラムの内容の妥当性やレベル感について悩みながら手探りで活動を行っている団体が多い事が分かりました。

しかし、一方で活動そのものに手がかかる、お金がかかることを理由に、自らの活動内容をふり返らず、ただ勢いに任せた活動を行っている団体も散見されるようになってきました。そのため、もう一度活動内容の評価や妥当性という事を再認識したり、コンプライアンスに対する姿勢をチェックしたりという、団体そのものを育成するための支援が必要だという考えに至りました。

具体的には、資金そのものの援助、資金援助を通した事務作業の指導、子どもを扱う事に対する指導、研修会の開催、保養活動のモニタリングと評価のフィードバック、助成事業に参加した方へのアンケート調査などの活動を展開し、この活動によって保養団体の成長を促し、もって福島をはじめとする子ども達へ間接的な恩恵となる活動を行う。

2. 主な活動内容・スケジュール

① パートナー事業

保養プログラムの質の向上を目的に、各保養団体のプログラムの特徴や長所短所を把握すると共に、課題の抽出と解決を図るため、その意思を持つ団体が当団体の支援を優先的に受けられるように、特定の強い関係性を保つようパートナーシップ制度を継続した。

2018 年度パートナー団体募集時期

説明会開催：2018 年 3 月 3 日 金沢
3 月 10 日 岡山、京都
3 月 17 日 札幌
3 月 18 日 郡山、東京

募集期間：説明会終了後から 2018 年 4 月 10 日まで

(前年度の事業期間であるが、事業の計画上前年度中に説明会を実施)

パートナー登録団体

2017 年度から更新	15 団体
2018 年度新規登録	9 団体
	計 24 団体

助成金の交付先のモニタリングも兼ね、12団体の保養の現場を視察し、関係者との意見交換を行った。また、いくつかの団体を抽出し、保養プログラムが終了した後、モニタリングの振り返りを行うため、フィードバック訪問を実施、その団体が抱える課題について突っ込んだ話し合いができた。

② 助成金事業

前年度に絵本プロジェクトから300万の寄付を頂いた。今年度は半分の150万を支出することとした。また、助成金の使途に合わせ、基盤強化枠、プログラム助成枠、保養設備強化枠を設け、更に例年通り要配慮者参加奨励金も予算化した。予算額は基盤強化枠（NPF）15万×4団体、計60万、プログラム枠（絵本）20万×6団体、計120万、保養設備強化枠（絵本）5万×4団体、20万、要配慮者参加奨励金（NPF）2万／人×15人、計30万とした。選考に対し、プログラム枠のみ絵本プロジェクトの方からも選考して頂いた。事前に当選考委員会の意見を聴取し、それを参考に最終的に事務局と絵本プロジェクトの代表者で決定した。

助成金交付結果

助成枠	団体名	採択額	要配慮者枠	合計
基盤強化枠	ライフケア	15万		15万
	子ども保養プロジェクト練馬	6.7万	4万	10.7万
	ふくふくっこ@知多半島	10万		10万
プログラム助成枠	びわこ1・2・3	20万		20万
	オアシス in 日高	20万		20万
	閑門保養プロジェクト下関	20万	2万	22万
	吹夢キャンプ	20万		20万
	ウエルカムかさおか	20万		20万
	さよなら原発ママパパ美作	15万		15万
	どろんこキャラバンたんば	7万		7万
	南紀おたすけ隊	7万		7万
保養設備強化枠	子どもの保養サポート上田	5万		5万
	長瀬やなせカラッポの家	5万		5万
要配慮者	PONTE		4万	4万
	計	170.7万	10万	180.7万

※ただし、ふくふくっこ@知多半島は後日採択額全額を辞退した。（参加者が集まらない事により開催を見合わせた）

③ 人材育成事業

昨年度はコンプライアンス研修とスタッフ研修を分けて実施し、参加者層を分ける形で実施したが、研修だけでなく交流や他団体との情報共有なども大きな学びである事から、研修と交流を合わせた形で1泊2日の規模の大きい研修会を行った。

研修会実施日

保養の未来を創る、学びと気づきの研修会～想いをつなぐ全国交流会～

開催日：11月17、18日 東京

参加者 パートナー団体 9団体 11名

一般団体 4団体 6名

計 13団体 17名

研修内容：基金から助成金、モニタリングの報告

参加団体から自己紹介と今年度の保養の報告

旅行業法をどう守るか・・・旅行会社との接点づくり

危機管理についてのワークショップ・・・保養を安全に開催する

ために、危機的状況に対する対応や対策

基盤整備に関するワークショップ・・・川北さんを講師に招いて

懇親会

3. 助成を受けた活動の報告（様子がわかる写真等があれば貼付してください）



モニタリングの訪問：昼食の準備の様子 8月14日 吹夢キャンプ



保養の未来を創る、学びと気づきの研修会：11月17～18日 ワークショップの模様

4. 活動の成果（成果物などがありましたらご紹介ください）

助成金の効果

採択総数 : 10団体+要配慮者追加交付1団体(設備強化枠2団体をのぞく)

参加者総数 : 353人 (子ども274人保護者79人内要配慮者5名)

事業費総額 : 13,953,730円

助成金合計 : 1,807,000円

参加費徴収額 : 2,192,250円

総事業費に占める当基金の割合

: 平均 12.95%

総事業費に占める参加者負担の割合

: 平均 15.71%

参加者一人当たりの事業費

: 平均 39,529円

参加者一人当たりの参加費

: 平均 6,210円

参加者一人当たりの助成額

: 平均 5,119円

要配慮者の参加人数

: 5名 うち追加交付申請5名分

プログラムの平均宿泊日数
：8.9日

過去年度との比較

項目	2015年夏	2016年夏	2017年夏	2018年夏
採択団体数	14団体	7団体	7団体	10団体
参加人数 子ども	357人	156人	136人	274人
参加人数 保護者	115人	24人	35人	79人
事業費総額	17,607,313円	8,039,613円	9,975,701円	13,953,730円
助成金合計	3,999,940円	1,860,000円	1,220,000円	1,807,000円
参加費徴収額	3,922,800円	1,370,500円	1,846,000円	2,192,250円
総事業費に占める当基金の割合（平均）	22.72%	23.14%	12.23%	12.95%
総事業費に占める参加者負担の割合（平均）	22.28%	17.05%	18.50%	15.71%
参加者一人当たりの事業費（平均）	49,320円	44,665円	58,337円	39,529円
参加者一人当たりの参加費（平均）	8,311円	7,614円	10,795円	6,210円
参加者一人当たりの助成額（平均）	11,204円	10,333円	7,134円	5,119円
要配慮者の参加人数	15名	16名	7名	5名
プログラムの平均宿泊日数	—	6.4日	8.0日	8.9日

今年度の傾向として、旅行業法対策のため参加者の移動費用を事業費に含めない（現地集合現地解散）団体が増えてきている（たまたま助成先がそのような団体が多かった可能性もある）。そのためここ数年で参加者の事業費や負担額が最も少ない結果となった。一方で事業費に占める当基金の助成金の割合は前年度とほぼ変わりなく、一定の下支えが出来ていると考える。

5. 今後の課題

- ・財源として昨年度絵本プロジェクトから寄付を頂いたが、継続的に資金源となる寄付元の開拓や事業の展開
- ・パートナー団体の弱体化の傾向がみられる。特に事務作業などの管理業務。そのフォローをどのように行うか。
- ・旅行業法をはじめとしたコンプライアンス推進を如何に広げていくか。
- ・事務局スタッフの更なるスキルアップ
- ・保養参加希望者と保養団体とのマッチングシステムの実現
- ・保養活動の更なる社会性の向上

以上